

目次

田中登教授 略年譜・著述目録	1
多変量解析を用いた万葉短歌の書式分類について	17
——『柿本人麻呂歌集』論として——	
村田右富実 川野 秀一	
もう一つの万葉集平仮名傍訓本	37
——関西大学蔵の題詞の高い平仮名傍訓本——	
田中 大士	
歌語「草ぶし」の変遷——院政期における万葉語撰取の側面——	51
北 島 紬	
素寂本『貫之集』書き入れの検討	63
北 井 佑美子	
伝九条兼実筆六半切『古今和歌集』の性格	75
立 石 大 樹	
坊門局の書風にみる父俊成の影響	85
阿 部 彩 乃	
岩崎美隆旧蔵私家集の検討	101
藏 中 さやか	
——関西大学岩崎美隆文庫本『惠慶集』を起点として——	
『和漢朗詠集』山井切と朗詠江注	119
惠 阪 友紀子	

冷泉家時雨亭文庫藏『難後拾遺』考	殿本佳美	131
再発見された『前斎院百首』について	奥野陽子	141
『伝藤原為家筆 八雲御抄』について	三木麻子	157
『新勅撰和歌集』にみえる後鳥羽院たちの幻影	瀧倉朋世	165
藤原為家の北野社百首——歌道家の危機における家意識と天神信仰——	福留瑞美	185
幻の伊勢物語屏風	山本登朗	201
——林原美術館蔵「池田綱政筆伊勢物語屏風メクリ四十二枚」をめぐって——		
伝藤原為氏筆『源氏物語』藤袴巻の新出断簡	岸本理恵	211
池田光政筆「古筆臨模聚成」所収の『源氏物語』本文の古筆切	中葉芳子	221
冷泉家本『源氏小鏡』の性格——和歌を中心として——	橋本美香	231
国宝『信貴山縁起絵巻』第一巻「山崎長者巻」に関する一考察	大西春香	247
熊野信仰にみる「女性の救済」——『熊野観心十界曼荼羅』の場合——	小川路世	267
戦国武將の千句連歌——明智光秀の五吟一日千句を中心に——	鶴崎裕雄	281

近世初期俳諧の漢字の表音用法による異体仮名 …………… 田中 巳築子 295
——『古今和歌集』『万葉集』を視野に入れて——

芭蕉〈カラス〉考 …………… 藤田 真一 311

関西大学による林原美術館蔵池田家伝来資料の調査と研究 …………… 山本 登朗 田中 登 335

——報告と中間総括——

山本 卓 乾 善彦
植野 哲也 中尾 和昇
橋本 龍

関東大震災前後の『時事新報』と三上於菟吉「白鬼」 …………… 関 肇 343

火野葦平「蕎麦の花」論——北九州の河童伝説をふまえて—— …………… 増田 周子 359

石川淳『六道遊行』論——歴史叙述をめぐって—— …………… 吉田 拓也 381

遠藤周作「砂の城」論——リルケ「ドウイノの悲歌」との関わりを中心に—— …………… 板野 楓 399

筒井康隆「虚人たち」論——対立存在との関係をめぐって—— …………… 松山 哲士 431

寺山修司「チエホフ祭」再考 …………… 大島 薫 449

——煙草くさき国語教師が言ふときに明日という語は最もかなし——

慶長16年本『節用集』漢字字体について	徐	茂峰	(1)
近代における時を表す語彙の諸相	山	際彰	(17)
——『 <small>歌謡</small> 花柳春話』と『通俗花柳春話』の対照から——			
疎の關係の人物に使用される依頼場面での許可求め表現に関する調査	辻	岡咲子	(35)
好悪表現の対象を示すヲが用いられやすい構文条件	池	田尋斗	(51)
広島県安芸方言の命令形式——大阪方言との対照——	森	勇太	(67)
発話方向からみたマンザイブーム期の東西漫才	日	高水穂	(83)